

## 16 ヌートリア〈げっ(齧)歯目、ヌートリア科、ヌートリア属〉

和名：ヌートリア

英名：Coypu

学名：*Myocastor coypus*

分布：チリー、アルゼンチンからボリビア、ブラジル南部



【ヌートリア】

(財) 東京動物園協会提供

### (1) 動物の特徴と同定

分布：南ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ボリビア、アルゼンチン、チリー

特徴：体色は茶色、赤みを帯びた黒色、上毛は粗いが灰色の下毛は柔らかく上質とされる。

尾は円筒状でネズミの尾に似る。後肢（後肢長11～15cm）には水かきがある。門歯は一生伸び続け、黄色をしている。乳頭は腹部より上部に位置する。

体長：43～63cm

尾長：22～42cm

体重：3.5～5.8kg

習性等：

- ・水辺に番、あるいはメスを中心とした小さな群れを作り、主に夜間活動する。ホテイアオイ等の水生植物のほか、淡水産の巻貝等を食すが、農作物にも食害を及ぼす。
- ・周年繁殖が見られるが、春と秋に出産が多く見られる。妊娠期間は123～150日で1産2～11頭、平均5頭前後で新生仔の体重は225g程である。
- ・寿命は10年くらいとされている。
- ・アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ポーランド、ドイツ、小アジア、コーカサス、ロシア等で移入した個体が野生化しているが、イギリスでは全てのヌートリアが駆除されたと言われる。
- ・我が国には毛皮を得る目的で1939年に輸入された記録があり、その後、需要の減少に伴い、逃げ出した個体が野生化し、岡山県、京都府、兵庫県、愛知県、三重県、岐阜県、香川県等でみられている。
- ・繁殖が旺盛で、アメリカ、ルイジアナ州の例では1932年20頭の個体から1962年には推定200万頭に増えたとされており、我が国においても上記以外の都府県においても捕獲例があり、増加が予想される。

## (2) 保定方法とマイクロチップの埋込み

### ア 保定の方法

#### A 器具を使用しない保定法

鋭い切歯を持っているため、素手では扱わない。

#### B 器具を使用した保定法

玉網を用いて捕獲する。網の上から皮手袋をはめた手で袋の上から親指と人差し指で頭をしっかりとつかみ、動けないように保定する。もう一方の手で四肢をしっかりとつかみ、横臥姿勢で保定する。

#### C 特に注意すべき事項

化学的保定を行う場合は、短時間であっても体温低下に注意する。術中は動物を保温パット上に置くなどの体温管理が必要となる。麻酔中の管理は、呼吸数、体温、心拍数をモニターするなど定法に従う。覚醒期は周囲の温度を 20～25℃に保つ

#### D 麻酔法

マイクロチップの埋込み処置は短時間で終了するため、原則的には深い麻酔は必要がない。網の上から、麻酔マスクでイソフルランを用いた吸入麻酔が最も安全で動物にストレスが少ない。イソフルラン 5%で導入し、2%で維持してマイクロチップを埋込む。術後、5分間は酸素吸入を行って覚醒を促す。ケタミンのみでは十分な無痛効果は期待できないが、鎮痛剤を併用することで軽い外科麻酔と筋弛緩が得られる。例えば、ケタミン 20～100mg/kg 筋肉内注射+ジアゼパム 2～8mg 筋肉内注射または腹腔内投与、ケタミン 40～100mg/kg 筋肉内注射+メデトミジン 0.25～1.0mg/kg 腹腔内投与などで不動化効果が得られる。

### イ マイクロチップの埋込みの方法

#### A 埋込みの部位

左右の肩甲骨間の皮下に埋込む。

#### B マイクロチップ埋込みの実際

玉網に入れたままマイクロチップを埋込むときは、床上あるいは診察台の上で頭の付け根をしっかりと持ち横臥姿勢とし、網の目から上記皮下に埋込み器の針を刺入する。化学的保定時は、物理的保定時と同様に安全のために頭の付け根をつかみ、横臥あるいは伏臥姿勢としてマイクロチップを埋込む。術部はイソジン綿か 70%アルコール綿で消毒し、埋込み器の針を上記の皮下に穿刺しマイクロチップを埋込む。マイクロチップの脱落を防ぐため、皮膚の穿刺痕に外科用接着剤を塗布し、外用散剤を散布する。

#### C 特に注意すべき事項

マイクロチップの埋込み時期は離乳後（生後 2 ヶ月）を目安とする。